

宗教心理学的研究の展開(10)―宗教心理学研究会発足 10 年目を迎えて―

ニューズレターの変遷から「研究会 10 年の歩み」を振り返り、
迎える「発足 11 年目以降の方向性」を模索する

中尾将大（大阪大谷大学）

はじめに

2012 年 3 月 24 日に神戸三宮にて第 3 回宗教心理学研究会ワーキンググループが開催された。発表者は初めて参加した。当日話し合われた内容については過日報告されたので、それを参照していただきたいが、その時、発表者は研究会発行の「ニューズレター」の価値と活用の可能性について発言した。ニューズレターは先に発行されたものを含めると、すでに第 16 号にまで及ぶ。発表者の見るところ、その内容はもはや「ニューズレター」の域を超えて「学術誌」としてもいいのではないかと思うくらい充実していると思われる。特にこの分野の初学の者（発表者もその一人だが）や若手研究者にとっては教育的かつ示唆的な要素、情報を多分に含んでいると思われる。

かつての発表者もそうであったが、宗教心理学という分野を志した時に困ったのが、情報の少なさと研究仲間がいないことであった。発表者がこの分野の研究に着手したのがちょうど 6 年前であった。当時はたった一人の船出で、まったくの手探り状態であった。最初に行なった「日本人の写経行動」に関する調査研究が、小さな心理学系の学会で一定の評価をいただき、手ごたえを感じていた。その当時、ご縁をいただき、宗教心理学研究会に入会させていただいたのである。そこで、事務局の松島公望先生をはじめ、多くの先生方との出会いの中で発表者は宗教心理学の研究者として育てていただいたのである（未だその途上であるが）。

ニューズレターにはこの研究会に在籍されている専門を異にする先生方の多くの視点や情報、示唆に富み、まさに「宗教心理学の宝石箱」といっても過言ではないと思われる。よって、この情報を整理整頓し、わかり易くまとめなおすことは宗教心理学という分野のメジャー化、および研究者人口の増加という面に寄与できるものと思われ、意義のあることであると信ずる。

将来、「宗教心理学研究会」が発展し、「日本宗教心理学会」となったとき、これらニューズレターがその組織の支柱となり、未来に向けての羅針盤となることと思われる。研究会発足 10 年を記念して、その歩みを振り返るということはそのままこの研究会の歩みと成長(?)を振り返るということになり、さらにこの組織の未来への方向性を探ることになるとと思われる。

1. ニュースレターの基本的構成と活用法、および将来の形

- ・研究会、公開シンポジウムの報告（具体的な研究内容）
- ・指定討論と質疑応答・・・研究会、シンポジウムの内容理解へ
- ・感想・・・当日は語られなかった視点と情報
- ・関連する話題（寄稿）・・・テーマの拡大と情報提供につながる

○問題点：表題が具体的でない（ニュースレターのバックナンバーをHPに掲載予定）

○活用法：バックナンバーを見ながら、自分の興味、専門分野に照らし合わせて参考となるニュースレターを選択する（PDF化されたファイルをHPでダウンロード可能）

- ・参考資料や文献を利用できる
- ・執筆者や発表者、事務局に質問等もできる（会員となることが望ましいが・・・）

○将来・・・研究会、公開シンポジウムなどテーマ別に分類し、公表（小冊子に）

=学会昇格後の「学術誌」への準備段階

- ・小冊子=肩がこらず、どなたにもわかりやすい。（事務局[あるいは編集委員会を立ち上げ]通じて販売=活動資金）

- ・論文や著書紹介のコーナー、書評コーナーの設置（これまでは単発的であった）

=啓蒙書としての役割

- ・研究会・シンポジウムの話題提供の内容を「報告書」でなく、「ショートペーパー」に

- ・将来的には会員を中心に「投稿論文」を掲載してゆく：編集委員会の立ち上げ

=「宗教心理学研究会誌」へと発展させては？（マンパワーの問題）

2 変遷から見えてくる研究会展開の姿

初期：宗教心理学の研究手法の模索（1）：宗教学的宗教心理学と心理学的宗教心理学

中期：宗教心理学とは何かを問う（定義）（2）

最近：各専門分野からの研究発表の展開（3）

（1）と（2）の確立に至っていない

しかし・・・（3）を展開しながら（1）と（2）について求め続け、問い続けているのではないか？

→ 常に「宗教心理学とは何か」を問い続け、苦しみ悶えながら歩んできた10年とも思える

結論：少しずつ、各専門分野からの成果を積み重ね、宗教心理学とはどのような学問分野か、そして、その研究方法にはどのような方法が望ましいのかを明らかにしてゆくしかないのではないか？その先に我が国における宗教心理学の姿、その目的もみえてくることだろう。歩みは遅いが、焦らず、着実に進んでゆくしかない。